

おおしかくぼ 史跡大鹿窪遺跡

発掘調査現地説明会資料

富士宮市教育委員会教育部
文化課 埋蔵文化財センター
令和2年10月23日(金)
10月24日(土)
11:00～・13:00～

調査場所：富士宮市大鹿窪1544・1543
調査期間：令和2年8月3日～10月30日
調査機関：富士宮市教育委員会教育部文化課

大鹿窪遺跡は、12900年前～12600年前ごろの縄文時代の集落跡です。

この遺跡は、平成13年の中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査によって明らかになりました。発掘調査の結果、縄文時代草創期じょうもんじだいそうそうきの遺跡としては、調査当時国内最多の竪穴住居跡や大量の土器・石器が見つかりました。

旧石器時代から縄文時代の初めの頃までは、人々は拠点を持たずに獲物を求めて居住地を変えるような生活をしていましたが、大鹿窪遺跡は拠点を作って人々が集まって生活をしたことがわかる非常に珍しい遺跡であることがわかりました。

平成20年3月28日に国指定史跡に登録されました。

【調査の目的】

今回の発掘調査は、遺跡がどのように見つかったかを動画や360度カメラで記録して、VRまたはARで公開するため、また、溶岩流の地形復元のために溶岩流の形状の3D測量を行うために実施したものです。

さらに、ガイダンス施設等で展示するための土層剥ぎ取りを実施しました。



写真1 トレンチ2 調査状況

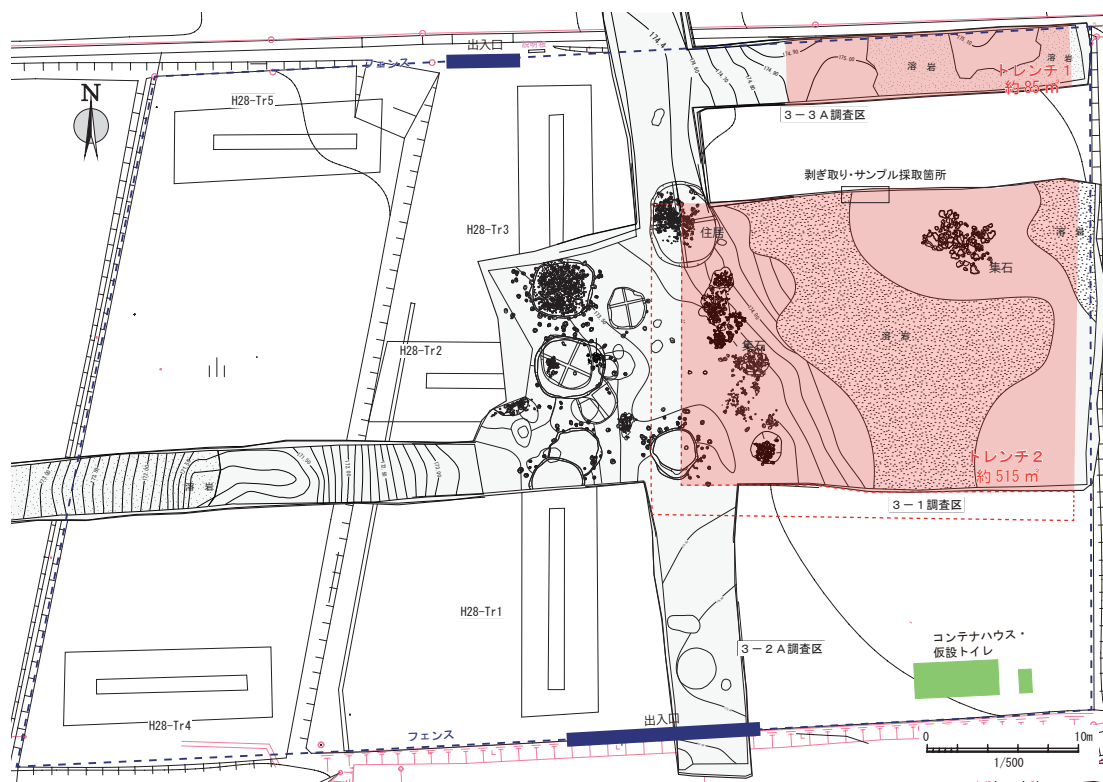


図1 発掘調査位置図 (1/500)



写真2 トレンチ1・トレンチ2



写真3 3-1調査区(平成13年度調査時)